

令和2年1月

報道関係各位

公益財団法人ミモカ美術振興財団

担当：佐々木良

〒763-0022 香川県丸亀市浜町80-1

TEL: 0877-24-7755 (内線 2391)/ FAX: 0877-24-7766

Email: press@mimoca.org

「幻の東京オリンピックに関する資料」 発見に関するお知らせ

大寒の候、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃は丸亀市猪熊弦一郎現代美術館の活動におきまして格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当館が所蔵しております猪熊弦一郎由来の資料の中から、猪熊弦一郎が幻の東京オリンピック(1940)に関係していたことを示す手紙が発見されましたので、お知らせいたします。

添付資料

- ・「東京オリンピック組織委員会会長・徳川家^{いえきと}達から猪熊弦一郎へ宛てた手紙」のコピー
- ・上記、手紙の口語訳
- ・幻の東京オリンピック(1940)のポスター審査に関する調査結果

【資料を読み解くポイント】

- ・東京オリンピック組織委員会会長・徳川家達名で、猪熊弦一郎に直接宛てた手紙ということ
- ・猪熊弦一郎が幻の東京オリンピックのポスターの審査に関わっていたことを示す資料ということ
- ・猪熊弦一郎が34歳という若さで、活躍していたことを示しているということ

【資料発見の経緯】

現在、丸亀市は公益財団法人ミモカ美術振興財団に丸亀市猪熊弦一郎現代美術館の収蔵作品管理業務を委託し、実施しております。

本年度は、キャンバス作品約 1,000 点、紙作品 2,000 点、手紙 2,400 通等を管理システムへの入力や撮影、調査等を随時進めております。

この度、発見された資料はその中の手紙でした。東京オリンピック組織委員会会長の徳川家達名で、「7月5日の審査会にきてほしい」という旨が記されていました。当時の組織委員会が作成した『報告書』には、当日行われたポスター審査員の欄に猪熊弦一郎の名前が明記されており、審査員の一人として選ばれていたことが確認できます。

当時、小磯良平らと共に新制作派協会(現 新制作協会)を結成したばかりで、注目を集めていた猪熊弦一郎。弱冠 34 歳にしての活躍を知る上での貴重な資料発見となりました。

【今後の予定】

丸亀市での東京オリンピック 2020 年大会の聖火リレーは、4 月 18 日に丸亀市猪熊弦一郎現代美術館から出発します。同日正午に当美術館はリオープンを迎えます。

展覧会名は「猪熊弦一郎展 アートはバイタミン」で、6 月 28 日まで開催します。常設展示では猪熊弦一郎の回顧展を行い、今回新たに発見された「幻の東京オリンピックの手紙」を展示する予定です。

つきましては、この度の資料発見を、貴紙、貴誌、貴番組にて、取り上げていただけますようお願い申し上げます。報道用の写真を用意しておりますので、ご希望の方はご連絡くださいませ。

なお、展覧会については、後日改めてプレスリリースをお出ししてお伝えいたします。

今後とも変わらぬお引き立てのほど、何卒どうぞよろしくお願い申し上げます。

丸亀市産業文化部文化課
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

▼第十一回東京オリンピック大会

1940年にアジア初のオリンピックとして東京が招致に成功したオリンピック大会。しかし、日中戦争などを理由に開催を返上し、未開催になったことから「幻の東京オリンピック」といわれる。

▼徳川家達(1863-1940)

徳川家最後の将軍徳川慶喜の子(養子)、徳川宗家 16 代当主。そのため十六代様ともよばれる。明治期には貴族院議長を 30 年勤め、その後東京オリンピック組織委員会の初代会長となる。

日本赤十字社社長、日米協会会長などを歴任。1940 年死去。76 歳。

▼猪熊弦一郎(1902-1993)

香川県高松市生まれ。幼少期を香川県で過ごす。

1926 年帝国美術院第七回展覧会に初入選し、以後 1934 年まで主に帝展を舞台に活躍する。1936 年、小磯良平らと新制作派協会を結成。1938-40 年、フランスに遊学、アンリ・マティスに学ぶ。

『小説新潮』の表紙絵、三越の包装紙「華ひらく」、上野駅の大壁画《自由》を制作するなど活躍。

1993 年、東京にて死去。90 歳。

▼丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

1991 年に開館。以降、猪熊本人より寄贈を受けた約 2 万点に及ぶ猪熊作品や資料を所蔵し、常設展示にて猪熊弦一郎の画業を紹介するほか、現代美術を中心とした年数回の特別展示を行う。

2018 年 12 月より長寿命化工事に伴い休館中で、2020 年 4 月 18 日にリオープンする予定。

拜啓 向暑之砌愈々清祥

事大賀候

陳者豫て大日本體育藝術

協會並に當組織委員會より

貴意を得置候オリソピック

東京大会ポスター及マーク審

査に關し來る七月五日午後

四時より東京市赤坂区葵町

満鐵ビル内組織委員會事務

局に於て審査會相催し度候

間御多忙中甚だ恐縮乍ら

當日御審査の為め枉げて

御來駕賜り度事懇願候

敬具

追而當日は粗饗の準備設置候に

付御含置被下度尚御來否御手

数乍ら御一報の程希上候

昭和十二年六月二十八日

第十二回オリソピック東京大会組織委員

會長 公爵 徳川家達

猪熊弦一郎殿

【原文】

拜啓 向暑之砌愈々御清祥
事大賀候

陳者豫て大日本體育藝術

協會並に當組織委員會より

貴意を得置候オリソピック

東京大会ポスター及マーク審

査に關し來る七月五日午後

四時より東京市赤坂区葵町

満鐵ビル内組織委員會事務

局に於て審査會相催し度候

間御多忙中甚だ恐縮乍ら

當日御審査の為め枉げて

御來駕賜り度事懇願候

敬具

追而當日は粗饗の準備設置候に

付御含置被下度尚御來否御手

数乍ら御一報の程希上候

昭和十二年六月二十八日

第十二回オリソピック東京大会組織委員

會長 公爵 徳川家達

猪熊弦一郎殿

【口語訳】

拜啓 向暑のみぎり いよいよご清祥の
事、大賀候

さて、かねて大日本體育藝術協会ならび

に当組織委員會より貴意を得ておきたい

と存じます。オリソピック東京大会ポス

ターおよびマーク審査に關し、來る七月

五日午後四時より東京市赤坂区葵町満鐵

ビル内組織委員會事務局において審査會

を相催しますので、御多忙中とはなはだ恐

縮ながら當日御審査の為、是非とも御來

訪たまわりたきこと懇願いたします。

敬具

追伸 当日は会食の準備設置があること

を含みおきください。なお御來否を御手

数ながら御一報くださいませ。

昭和十二年六月二十八日

第十二回オリソピック東京大会組織委員

會長 公爵 徳川家達

猪熊弦一郎殿

幻の東京オリンピック(1940)のポスター審査に関する調査結果

2020.1.28 公益財団法人ミモカ美術振興財団 佐々木良作成

今回の調査により、猪熊弦一郎が幻の東京オリンピック(第十二回オリンピック東京大会1940)のポスターの審査員に選ばれたことが分かった。このことは、『徳川家達から猪熊弦一郎に宛てた手紙』『第十二回オリンピック東京大会組織委員会「報告書」』の資料等により確認できた。

以下、時系列に沿って記載する。

(※印については、調査を担当した佐々木の見解)

昭和 11 年(1936)

- 7月31日、ベルリンにてIOC総会が開かれ1940年大会の開催都市は東京に決定。
翌8月1日から、第十一回オリンピックベルリン大会開催。

昭和 12 年(1937)

- 4月30日、組織委員会 第二部委員会 第4回会議を開催。マークとポスターを公募で決めることを決定。デザインは組織委員会の決定としたが、実質は大日本体育芸術協会に委ねられた。
- 5月5日、第5回会議を開催。マークとポスター審査方法、審査員を決定。
【ポスターの審査員】事務局2名、大日本体育芸術協会20名(名前は、いろは順)。

久保田敬一(事務局長)

田 誠(第二委員会委員長)

伊藤廉(洋画家、大日本体育芸術協会理事)

猪熊弦一郎(洋画家)

西山翠嶂(日本画家)

星野辰男(作家、翻訳家、アサヒグラフ編集長)

東郷青児(日本画家)

鎗木清方(日本画家)

川端龍子(日本画家)

川村曼舟(日本画家)

成澤金兵衛(文学作家)

中島健蔵(文学作家、文芸評論家)

安井曾太郎(洋画家)

前田青邨(日本画家)

牧野虎雄(日本画家)

福原信三(資生堂社長)

足立源一郎(洋画家、登山家、作家)

青山義雄(洋画家)

秋山轍輔(写真家)

佐藤武夫(建築家)

結城素明(日本画家)

北尾鐮之助(写真家、作家)

以上 22 名

※なお、マークの審査にはのちに人間国宝となる富本憲吉ら15名が名を連ねている。猪熊はマークの審査員ではない。

- 6月28日、組織委員会会長徳川家達から猪熊へ手紙。
※徳川家達の直筆かどうかは不明。
- 6月30日、マークとポスター案締め切り。応募総数はマーク12,113点、ポスター1,211点。
- 7月5日、審査会を実施。
マークは順調に決まり、7月10日に結果を発表した。
一方で、ポスターは満足のいくものがなかったようで、締め切りを9月20日まで延期して再募集することになった。
※猪熊が審査会に参加したかどうかは不明。
- 9月20日、ポスター再募集締め切り。追加で781点が集まる。
- 9月24日、ポスター審査会を再度開催。黒田典夫の図案に決定。
なお、新制作派協会(現 新制作協会)の脇田和が三等(4~6位相当)に入選している。
※再度開催した審査会の写真は「Olympic News No.6」に掲載されている。
- しかしその後、内務省の検閲が入り、審査会で決定した図案には神武天皇が描かれているという理由で使用不可になった。そこでマークの審査委員だった和田三造(東京美術学校図案課教授・洋画家)がピンチヒッターとして新たに制作し、それに決定した。
結局、審査会そのものの意味がなくなったことになる。

昭和13(1938)

- 7月15日、日中戦争を理由に国内外からの批判が相次いだため大会を返上した。

参考文献

[1]第十二回オリンピック東京大会組織委員会「報告書」、1939年

[2]夫馬信一「幻の東京五輪・万博1940」原書房、2016年

[3]坂上康博、高岡 裕之「幻の東京オリンピックとその時代—戦時期のスポーツ・都市・身体」青弓社、2009年

[4]山名文夫「新装復刻版 体験的デザイン史」誠文堂新光社、2015年